

アイヌ語の助動詞 aan と証拠性

吉川 佳見

1. はじめに

アイヌ語における証拠性表示の要素には、これまで ruwe、siri、hawe、humi¹といった形式名詞が挙げられてきたが、本稿では新たに、証拠性にかかわるものとして助動詞 aan（複数形 rokoka²）を提案する。

助動詞 aan（以下、aan）は、過去ないしは完了を表すと考えられている助動詞 a と存在動詞 an から成ることが先行研究で明らかになっている。そして、「何か物事が起こったあと、その物事が実際はこういうことであった」というように、既に起こったイベントに対して、そのイベントの生起時には分からなかったことが今（＝発話時）判明したことを表す助動詞と考えられている。また、意外な結果に対する驚きを表すことも指摘されている。これらの特性に注目し、本稿では aan と間接証拠性(Indirect Evidentiality)の関連を探る。分析対象とする方言は沙流方言とする。

2. 先行研究

2.1 aan に関する先行研究

ここでは aan に関する先行研究（文法書または辞書における記述）を概観する。本稿で検討する用例は沙流方言のものだが、本章では幌別方言、千歳方言³での aan の記述も含めて参照する。一部の参考文献については、アイヌ語表記は現代用いられる形式でのローマ字表記に改変した。また、一部、表記を現代仮名遣いに改変した。和訳はすべて原典に従い、グロス筆者が付した。

2.1.1 金田一(1993 [1931])

既に完了して今にその結果が及んでいるのを発見した時には a-an を用いる。a は完了で-an はやはり存在の an であるらしい。

¹ ru 「道、跡」、sir 「様子」、haw 「声」、hum 「音、感覚」という名詞概念形が、ru-we 「～の道、跡」、sir-i 「～の様子」、haw-e 「～の声」、hum-i 「～の音、感覚」、のように名詞所属形に変化した形式。これらにコピュラ動詞 ne、存在動詞 an、終助詞 un などが付いた「文末詞（中川 1995：13）」の形式で証拠性が表示される。ruwe は証拠に基づく事実、siri は視覚による判断、hawe は言葉による判断、humi はそれ以外の感覚による判断を表す。

² aan の代わりに複数形 rokoka が用いられることもあるが、本稿では便宜上 aan の形に代表させて説明を行なう。また、aan は方言によっては awan や anan という形もとるが、これも同様に含める。

³ 沙流方言（金田一 1993 [1931]、田村 1988、萱野 1996）、沙流・幌別方言（知里 1974 [1936]）、千歳方言（中川 1995）、沙流・千歳含む北海道南部（ブガエワ 2014）。区分はブガエワ(2014)等を参照した。

inkar=an hike aynu ka utarpake, osmake us pe kotcake us pe upak kane
見る=4.S したところ 人間 も 立派な人 後ろ 付く もの 前 付く もの 同じ ほどで

huskotoy wa sirkirap pe ne **aan**, hine i=erankarap.

昔 から 難儀する もの COP AAN て 4.O=挨拶する
我打見たるに人間も大将髪の方がうしろも前も相ひとしく
永い間悲しみにくれていた者であった そして私へ会釈をした

(金田一 1993 [1931] : 294-295)

2.1.2 知里(1974[1936])

知里 (1974[1936] : 155-158) を参照すると、aan は「確説法」に分類されている。「確説法」とは、「文の内容を既定の事実として確説するもの (同 p154)」である。

a-(w)an (pl. rok-okai)

意外な事実又は結果に対する驚きを示す。

(nep ka wen pe hen ne kuni a=ramu awa, oroyaciki)
何 か 悪い もの でも COP ように 4.A=思う たが なるほど

Penanpe kamuy poho ne **awan**.

ペナンペ 神 子 COP AAN

(何か悪い者でもあるにちがいないと思っていたのに意外にも)
ペナンペは神の子であった

(sennekaunsuy ene ne kuni a=ramu awa, oroyaciki)
よもや~ない そのように COP ように 4.A=思う たが 意外にも

Pananpe kor seta utar ne **rokokay**.

ペナンペ 持つ 犬 たち COP AAN

(よもやそうだとは思わなかったのに意外にも)
ペナンペの犬どもであった

(知里 1974[1936] : 158、カナ表記改変)

2.1.3 田村(1988)

今、あるいはある定まったときの状況から、それ以前のことを推定する「~したんだな」。

pukuru ne kunak ku=ramu a p tusaha ne **aan**.

袋 COP ように 1SG.A=思う た が 袖 COP AAN

「袋だと (私は) 思ったが袖だったんだな」

(人が縫物しているのを見て、袋を縫っているのだろうと思っていたが、だんだんできてきたので、袖を縫っていたということが分かった)

te ta an **aan** kur ku=hunara kor k=omanan.

ここ に いる AAN 人 1SG.A=探す て 1SG.S=歩き回る

「ここにいた人を私は探して歩いていた」

(一生けんめい探しまわっていたが、なあんだ、ここにいたんだな)

複数の場合に、aan の代わりに rokoka が用いられることもある。

kamuy unpirma an siri ne **rokoka** an hi an !

神 おつげ ある 様子 COP AAN ある こと ある

「神様のおつげがあるのだったなあ！」

(田村 1988 : 42)

2.1.4 ブガエワ(2014)

ブガエワ(2014 : 63)では、aan は「感嘆ムード」を表す助動詞となっている。

2.1.5 辞書記述

ここでは、辞書における記述を列挙する。

・田村(1996)『アイヌ語沙流方言辞典』

「...したのだった (なあ) (ということがあとからわかった)。」

ku=sinewe en=okake ta e=ek **aan** hawe ne wa
1SG.S=遊びに行く 1SG.O=後 に 2SG.S=来る AAN 声 COP FIN

「私が遊びに行った留守にあなたが来たんだなあ。」

k=eyaykopuntek akus sunke ne **aan**

1SG.A=喜ぶ すると 嘘 COP AAN

「本当かと思って喜んだらうそだったんだなあ。」

(田村 1996 : 2-3)

・中川(1995)『アイヌ語千歳方言辞典』

(後から考えて) ~であるということがわかった。~だったのだ。(…略…) 韻文中では音韻の関係で、とくに複数表示をする必要がない場合でもアナン⁴の代わりにロコカ (イ) が

⁴ 千歳方言辞典では anan (アナン) として掲載。千歳方言話者の「白沢ナベ氏の語りではもっぱらアナンであり、アアンの形はまれ (中川 1995 : 12)」

使われることがあるようである。ロコカイのあとにさらにまたアナンが重ねられることもある。

tusuninke aynu kat ne yaykar hine i=kokursura ruwe ne **anan**

エゾリス 人間 格好 COP 化ける て 40=たぶらかす こと COP AAN

エゾリスが人間の姿に化けて、私をたぶらかしていたのであった

(中川 1995 : 12)

・萱野(1996)『萱野茂のアイヌ語辞典』

～だったのであった、様子だ、～らしい。意外な事実または結果に対する驚きを示す。

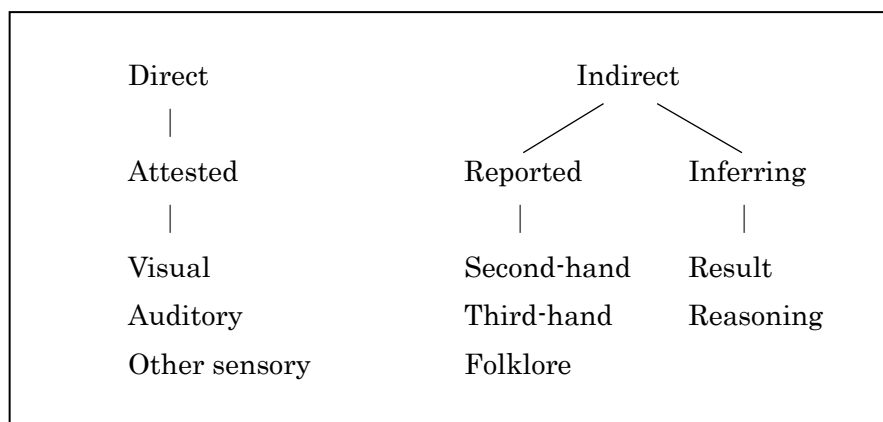
(萱野 1996 : 2)

以上、aan に関する記述を概観してきた。いずれの記述も、「何か物事が起こったあと、その物事が実際はこういうことであった」というように、既に起こったイベントに対して、そのイベントの生起時には分からなかったことが今 (=発話時) 判明した、ということが述べられている。また、話し手にとって予想外の事実が判明することが複数の記述から分かる。これらを合わせて考えると、aan と間接証拠性、意外性との関連が推測される。

2.2 間接証拠性と意外性

証拠性(Evidentiality)は、話し手がどのようにして文の表す情報を得たかを表す文法範疇である(斎藤ほか編:118)。証拠性は、直接(Direct)証拠性と間接(Indirect)証拠性の二つに大別される。前者は、話者が視覚・聴覚・触覚などの知覚的手段によって、出来事を直接確認することであり、後者は、話者が間接的に出来事を確認することである。(Willet 1988)

以下は、Willet(1988)による、証拠のタイプを表した表である。Indirect は、言語情報に基づく伝聞(Reported)と非言語的情報に基づく推量(Inferring)に分かれる。



Types of Evidence (Willet 1988 : 57)

Aikhenvald (2004)は証拠性の意味的パラメータとして以下の6種を挙げている。間接証拠性に関わるものとしては、Ⅲ～Ⅵが相当する。

文法カテゴリーとしての証拠性を有する言語がこれらをすべて明示するわけではなく、言語によってその区分は異なる。Aikhenvald (2004)は想定される系統として14種類を挙げているが、たとえばそのうちのA1系統では、VISUALとNON-VISUAL SENSORYはFirsthand (直接経験)、その他はすべてNon-firsthand (間接経験)に含められる。⁵

- I. VISUAL: covers information acquired through seeing.
 - II. NON-VISUAL SENSORY: covers information acquired through hearing, and is typically extended to smell and taste, and sometimes also to touch.
 - III. INFERENCE: based on visible or tangible evidence, or result.
 - IV. ASSUMPTION: based on evidence other than visible results: this may include logical reasoning, assumption, or simply general knowledge.
 - V. HEARSAY: for reported information with no reference to those it was reported by.
 - VI. QUOTATIVE: for reported information with an overt reference to the quoted source.
- (Aikhenvald 2004 : 63-64)

また、間接証拠性との関連が指摘されているものとして、意外性(Mirativity)がある。意外性とは、話し手の予想外の気持ちや新情報を表す意味範疇である (Delancy 2001、Aikhenvald2004)。意外性を証拠性に含めるか否かについては立場が分かれる。

たとえばトルコ語において、-miş は間接経験を表す一方、話し手の既存の知識 (あるいは予測) に反する情報であれば、直接経験に基づく情報にも使用することができる。そのとき-miş は、意外性を表す。この現象に対しては、あくまで-miş は間接経験を表し、-miş の表す驚きは-miş の副次的効果であるとする立場と、-miş は本質的には間接経験による情報ではなく意外性を表すとする立場があり、特に後者の場合、さらに意外性を証拠性に含める立場と、証拠性に含めず、独立した文法範疇とみる立場の2つがある (斎藤ほか編 : 118)。意外性と証拠性の区分についての議論は本稿では行わず今後の課題とし、現時点ではそれぞれの性質が aan にどのように表れるかを観察する。

3. 本稿の視点

日本語の方言でも、間接証拠性を表す形式を持つ方言が複数報告されている⁶。工藤

⁵ その他は Aikhenvald(2004 : 63-65)を参照。

⁶ 方言には、間接的証拠に基づく確認である間接的エヴィデンシャルティーを表す専用形式がある。痕跡 (形跡) の知覚や伝聞 (linguistic evidence) といった間接的証拠に基づく以前の動作・変化の確認を表す場合に、首里方言やウチナーヤマトゥグチでは、<主体結果>を表すアスペクト形式とは異なる形式が使用される。(工藤 2014 : 647)

(2014: 575)によると、たとえば、首里方言では「マヤーヤ シジェーン⁷」と言う文は、「猫の死体はないが、間接的証拠となる血痕を見て「猫が死んだのだ」と、過去の事象を確認（推定）した場合」＝＜間接的証拠となる痕跡に基づく過去の事象の確認（推定）＞に使われるという。目の前で実際に猫が死んでいる光景を目にした場合、アイヌ語では以下の(a)のような表現が可能だが、血痕を見て猫が死んだことを推測する場合に(b)のような表現が可能かどうかは定かではない。

- (a) cape ray wa an.⁸ 「猫が死んでいる」
 猫 死ぬ て いる
- (b) cape ray aan. 「(血痕を見て) 猫が死んだのだ」(?)
 猫 死ぬ AAN

近現代におけるアイヌ語母語話者の減少から、(b)のような表現が可能かどうかをインフォーマントから確かめることは、現在不可能に近い。1898年発行の『アイヌ語會話字典』には以下(c)(d)(e)のような例文があるが、実際の発話状況は不明である。

- (c) na ponno ne yakun a=orawki **aan.**
 まだ 少し COP なら 4.A=しそこなう AAN
 「もう一寸で遅れるところだった。」
 (神保小虎・金澤庄三郎(1986[1898]) : 38、アイヌ語表記・カナ表記改変)
- (d) ya! ya! ku=moyre **aan** na.
 やあ やあ 1SG.S=遅い AAN FIN
 「やあ遅れた。」
 (神保小虎・金澤庄三郎(1986[1898]) : 38、アイヌ語表記・カナ表記改変)
- (e) nen ka ku=kor poci ikopa wa kor wa arpa **aan.**
 誰 か 1SG.A=持つ 帽子 取り違える て 持つ て 行く AAN
 「誰か私の帽子を間違えて持って行った。」
 (神保小虎・金澤庄三郎(1986[1898]) : 230、アイヌ語表記・カナ表記改変)

そこで本稿では、散文説話資料を用例収集対象とし、前後の文脈を踏まえて **aan** の機能を探る。3章で上げる用例には一部会話文を含んでいる（例文(9)）が、これは前後の会話採録されているものであるため、検討可能な対象とした。

⁷ 非過去形の「シテアル」に相当する形式。

⁸ **wa an** は変化の結果の継続を表し、日本語の「～ている」に概ね相当する。

4. 用例

以下、散文説話（一部会話文含む）からの用例を参照する。なお、アイヌ語の散文説話は、ほとんどが一人称で語られる形式をとっている。本稿では必要に応じて「発話」という語を説明で用いるが、これは説話中で当該人物が実際に「発言」したもののほか、心中で思考したことや、いわゆる「地の文」に相当するものも含めている。

例文の和訳は原典に従ったが、一部主語などを補っている。グロスは筆者が付した。

4.1 過去の状況の間接確認

例(1)～(4)は、話し手が目の前の状況から行なった、過去の状況の間接確認である。

(1)は、話し手が自分の家に戻ってきたときに、家の中が荒らされている形跡を目にし、それが熊の仕業であることを推測した場面である。この場面で、既に熊はいなくなっている。

(1) a=uni ta ek=an ruwe ne akusu

4.A=家 に 来る=4.S こと COP すると

a=uni ta kamuy san **aan** hine

4.A=家 に 熊 下りる AAN て

私の家に来たところ

私の家にクマが下りて来ていたのでした。

(上田トシさんの民話 まぼろしを見た女 (1997))

(2)は、倒れた祭壇の下から虫のなくような声がするのを聞いて祭壇を起こすと、そこに赤ん坊がいたのを見て、状況を推測した場面である。nusakohokuste とは「一族がもう絶体絶命というときに、神々に守護を願って赤ん坊を地面に置き、その上に祭壇を倒す（ア音 10 : 69）」ことだが、ここでは話し手が、赤ん坊の母親が夜襲から赤ん坊を救うために nusakohokuste したのだらうと考えている。

(2) iwatarap e=ne wa, e=unuhu e=nusakohokuste,

赤ん坊 2.A=COP て 2.A=母 2.A=祭壇を倒す

ekohopi a=rayke wa isam hi ne **aan**.

別れて 4.A=殺す て なくなる こと COP AAN

乳飲み子のお前を、母親が祭壇を倒してその下に隠し、

まもなく殺されてしまったのだっらしい。

(ア音 10 : 68)

(3)は、目の前の木を見て、木の打ち傷がおじいさんによって昔付けられたものであることを推測している。話し手はこれより前の場面で、おじいさんから、打ち傷をつけた木があることを聞かされている。

- (3) pet nutap ka ta siporo cikuni
 川端 上 に とても大きい 木
 teeta kane huskono kane a=tawkitawki p ne **aan** pe...
 昔に 古くに 4.A=たたいて切りつける もの COP AAN もの
 川端に、とても大きな木、
 ずっと昔に打ち傷をつけられたらしいのが...

(ア音 10 : 76)

(4)は、雪ぼこりが渦巻いている様子を見た話し手が、その渦巻いている場所の前方に先回りして行ったところ、男が熊に追いかけているのを目にし、それが雪ぼこりが渦巻いている原因であったのだと確認するところである。

- (4) nea aynu kesianpa wakusu
 その 人間 追いかける ので
 upasupun sinoye katu ne **aan** hine...
 雪ぼこり 渦巻く 様子 COP AAN て
 (熊が) その男を追いかけますので
 それで雪ぼこりが渦巻いていたのでした

(ア音 6 : 72)

例(5)(6)のように、他者からの言語情報による過去の状況の間接確認も表される。

(5)は、話し手が、自分の村に飢饉があり、大半の人が飢え死にしてしまったという噂を聞いた場面である。主人公はかつて息子夫婦に自分の村を追い出されており、今は別の村で暮らしているのだが、そこに息子の嫁が今にも死にそうな様子で訪ねてくる。しかし主人公は自分を追い出した息子の嫁を無視し、嫁は帰っていく。そしてそのあと、飢饉の噂を耳にして、以下のように推測する。

- (5) a=kotanu kemus **aan** hine ora
 4.A=村 飢饉になる AAN て それから
 kem koyaywennukar pe omanan ayne
 飢饉 苦勞する もの 歩き回る 挙句

i=pa siri ne **aan** hawe a=nu wa
 4.O=見つける 様子 COP AAN 声 4.A=聞く て

po hene a=ruska
 なお また 4.A=怒る

私の村が飢饉になったのだなあ、そして
 飢えて苦しんだ奴が、歩いているうちに
 私を見つけたのだなあと思われる話を聞いて
 私はいっそう、腹が立ちました。

(ア音 2 : 10-12)

(6)は、話し手が自分の身の上を語っている。主人公はもともと村長の息子であったが、幼い時に村に伝染病が流行って主人公以外全滅してしまった。それを天から降りてきた飢饉の神が育てていたのだが、主人公は大きくなってから初めてそのことを聞かされ、別の村を訪れたときにその経緯を話している場面である。村長の息子であったことと、神に育てられたことが、言語情報を通して間接的に確認されている。

(6) tapne Iskar penikehe rera oyan wa
 このように 石狩川 川上 伝染病が流行る て
 oro ta kotan kor kur poho a=ne **aan** korka
 そこ に 村長 息子 4 .A=COP AAN けれど
 i=resu kamuy isam wakusu
 4.A=育てる 神 いない ので
 kanto or wa kemram kamuy ran wa
 天 ところ から 飢饉の神 降りる て
 i=resu hi ne **aan** pe ...
 4.A=育てる こと COP AAN もの

かくかくしかじかで、石狩川の上流に伝染病がはやって
 私は、そこの、村長の息子だったのですけれど、
 私を育てる神様がいなかったの、天から飢饉の神様が降りて来られて、
 私を育ててくださったのですが…

(ア音 2 : 52)

4.2 話し手の予想外の出来事、新情報

例(7)(8)(9)は、話し手にとっての予想外の出来事の生起や、話し手が今まで知らなかったこと（新情報）を知ったことが表される。ここでは意外性との関連が考えられる。

(7)は、ふと気づくとこのような場所にいたという意図で発話されたもので、動作は無意識によるものである。

- (7) inkar=an akusu tan sunku nitek epokikomomse
見る=4.S すると この エゾマツ 枝 折れ下がる

cise neno kane an uske ta an=an hi ne **aan** wa ...
家 のように なっている 所 に いる=4.S こと COP AAN て
見ると、このエゾマツの枝が折れ下がり
家のようになっている所に私はいたのでした。
(川上まつ子さんの民話 エゾマツの女神と魔鳥 (1985))

(8)は、相手（話し手の兄）が、幼い頃から千里眼⁹の持ち主であったことを明かし、話し手がそれを初めて知った場面である。

- (8) easir a=yupihi isoytak kus
初めて 4.A=兄 話す ので

oyaciki ponram oro wano ueinkar kur ne **aan**.
なるほど 幼いとき から 千里眼の持ち主 COP AAN
初めて兄が話してくれたのでわかったのですが
実は、兄は小さいときから目に見えないことでも見ているようにわかる能力の
持ち主だったのでした。
（「初めて兄が話したので、兄は幼い頃から千里眼の持ち主であった。」）
(ア音 6 : 54)

(9)は、相手からなぞなぞの答えを聞いて、その答えが日本語で言う「消しゴム」だったと知って発言したものである。

- (9) ohayne tap sisam ye hi KESIKOMU ne **aan**.
なるほど本当に 和人 言う こと 消しゴム COP AAN

tanepo ku=nu hawe ne wa.
初めて 1SG.A=聞く 声 COP FIN
なるほど和人が言うのは消しゴムだったのか。
初めて聞いたわ。
(ア音 1 : 58)

⁹ 巫力によって、遠くで起こっているできごとが見えたり、これから起こることがわかったり、病気の原因を見つけたりすることができる。(中川 1995 : 52)

4.3 仮定的状況からの推測

例(10)~(13)は、条件節をうけており、ある仮定に基づいた推測が行われている。

(10)は、魚を犬にやったところ、その魚を食べた犬が死んだのを見て言った言葉である。ここで、魚を犬にやった人物は、魚に毒が入っていることを予測したうえで、それを相手に伝えようとしてわざと犬に食べさせている。魚を村人に食べさせたとしたら、その結果として村人は死んでいたはずだという話し手の推測である。

間接経験が未来と組み合わせあった場合、予言的な未来、すなわち話し手が現在の証拠から未来に起こる出来事を確信をもって推測していることを表わす場合があるが(Aikhenvald 2004 : 263)、ここでも類似の現象が考えられる。

- (10) e=se wa e=arpa wa e=utari e=ere yakun
 2.A=背負う て 2.S=行く て 2.A=同胞 2.A=食べさせる ならば
 e=utari opitta ray kusu ne **aan** pe...
 2.A=同胞 皆 死ぬ することになる AAN が
 あなたが（魚を）持って帰って、あなたの村の人たちに食べさせたら、
 あなたの村の人はみんな死んでしまうところでした
 (ア音 6 : 6)

(11)は、家を出て、たどり着いた林で暮らしているうちにふと妊娠に気づく場面である。

- (11) honkor=an hi a=eraman yakun
 妊娠する=4.S こと 4.A=わかる ならば
 nen sipasekamuy iki yakka
 どう 尊い神 する ても
 somo yayikesuyre=an **aan** pe
 NEG 家出する=4.S AAN もの
 (自分が) 妊娠していることを知っていたなら
 どういうことを尊い神がしても
 自ら家を出ることはなかったというのに
 (川上まつ子さんの民話 ポロシルンカムイになった少年 (1985))

例(12)(13)のように、疑問詞と共起して、反語的な表現になる場合もある。

- (12) iohaysitomare, ene an pe kamuy isam pe ne a ciki
 おやまあ (たまげた) このように ある もの 神 いない もの COP た なら

makanak iki wa a=kor pon menoko siknu p ne **aan** wa...

どう する て 4.A=持つ 若い 女 生きる もの COP AAN て

おやまあ、こんなもの、神様がいなかったら、
いったいどうやって、この娘さんは助かることができたろう

(ア音 10 : 116)

(13) paskur utar i=ka opiwki somo ki p a yakun

カラス た 4.O=上 助ける NEG する もの た ならば

makanak iki=an wa siknu=an wa an=an **aan** hawe ene an.

どう する=4.S て 生きる=4.S て いる=4.S AAN 声 このように ある

カラス達が私を守ってくれなかったならば

一体どうやって生きることができたというのでしょうか。

(川上まつ子さんの民話 イクレスイェとカラス神 (1984))

4.4 語りの機能としての間接経験

(14)は、主人公（「奥様」）に、話し手（墓標の女神）が語りかける場面である。主人公はもともと石狩川河口の村長の妻であったが、ある日突然村の下流の貧乏人の男の家に身を寄せるようになる。そうして暮らしているところに、墓標の女神がやってきて話しかける。話し手は、透視の能力で主人公の様子を見ながらやってきている。ここでの「透視」とは、「巫力によって、遠くで起こっているできごとが見えたり、これから起こることがわかったり、病気の原因を見つけたりすることができる。（中川 1995 : 52）」（注 9 の「千里眼」に同じ）のことを言う。

(14) tan katkemat, tan Iskar putu kor nispa hekote katkemat

そこの 奥様 この 石狩川河口 の 長者 連れ添う 奥様

e=ne **aan** ruwe a=nukar

2.A=COP AAN こと 4.A=見る

sietok un a=nukar kor ek=an.

自分の前方に 4.A=見る て 来る=4.S

奥様、あなたが、この石狩川の川口の村長に連れ添う奥様で

いらっしゃったということを私は見、

自分の歩く先の方に見ながら（=霊力で透視しながら）来ました。

(ア音 2 : 38)

(15)は、(14)と同じセリフの中で語られる内容である。セリフの初めに(14)を言ってしばらくしたのち、また同様の内容(15)を繰り返している。

- (15) henoye=an uske ka isam kor ek=an ayne
 寄る=4.S ところ も ない て 来る=4.S 挙句
 sietok un inkar=an ayke
 自分の前方 に 見る=4.S すると
 Iskar putu kor nispa kor katkemat e=ne **aan** korka
 石狩川 河口 の 長者 持つ 奥様 2.A=COP AAN けれど
 pak kewtumu pirka pak ramatu pirka katkemat oar isam pe
 まで 気性 良い まで 魂 良い 奥様 全く いない もの
 e=ne **aan** ruwe ne.
 2.A=COP AAN こと COP
 寄る所もなく、ずうっと歩いてきてから
 行く手を見ますと (=透視しますと)
 あなたは石狩川の川口の村長さん奥様、村長に連れ添う奥様でしたが、
 これほど気性のよい、これほど魂のきれいな婦人はいない、
 そういうすばらしい女性でした。

(ア音 2 : 40-42)

これら(14)(15)は、発話時において、目の前の痕跡から過去を推測しているものではなく、発話時以前の時点 (=透視をしたとき) に、このようなことが分かったと告げている場面になる。また、(16)では、ヤナギの神が聞き手 (主人公) に語りかけている。主人公の父親はなぜか猟運がなく、そのために貧しい暮らしをしていたのだが、その猟運がない理由をヤナギの神が主人公に明かす場面である。(16)は、透視によって分かったことでもなく、話し手であるヤナギの神がそもそも知っていた事実を語っているにすぎない。例(14)(15)(16)は、間接経験や意外性とは異なっており、語りの機能のひとつとして、物語中の過去の事象として明示¹⁰するために **aan** を用いている可能性もあるが、今後さらに用例を検討していきたい部分である。

- (16) Aynuramatkarkamuy e=onaha isoramat kore oyra hine
 人間の魂をつくる神 2.A=父 狩りの魂 与える 忘れる て
 aynu or ta hetuk pe ne **aan** wa
 人間 ところ に 生える も COP AAN て
 hon orowano isoramat sak no hetuku p e=onaha ne **aan** hine
 腹 ところから 狩りの魂 ない て 生える もの 2.A=父 COP AAN て

¹⁰ 間接経験のマーカ―が過去の事象を物語るときに使われる場合がある (Aikhenvald 2004:311)。

人間の魂を作る神がおまえの父上に狩りの魂を入れるのを忘れて
人間の国に生まれたのであって
お腹の中から狩りの魂を持たずに生まれたのがおまえの父上であったのだ。
(川上まつ子さんの民話 村長の家に嫁いだ貧しい娘とヤナギの神 (1987))

5. 助動詞 a との関係—アスペクトの問題

本稿冒頭で述べたように、アイヌ語には、過去ないしは完了を表すと考えられている助動詞 a (以下、a) があり、aan はこの a と存在動詞 an から成る。そして、a の表す「完了」とは Perfect、すなわち、現在に関係のある過去の場面、つまり過去の出来事の結果が現在に残っていることを表す¹¹という考えが一般になっている。

しかし、aan が、事態があとから判明することを示すという定説を考えれば、アスペクトの観点からすると aan は Perfect に相当する。a も aan も Perfect を表すとすれば、両者の違いはどこにあるのだろうか。

ここで、a についての先行研究の記述を再検討してみると、a が示す完了には Perfect と Perfective (完結相) が混在している部分があることがわかる。

Perfective は、出来事を、その内的時間構成とは無関係にひとまとまりのものとしてとらえるもの¹²であり、Perfect とは別物である。

金田一(1993[1931])は、「既に完了して今にその結果が及んでいるのを発見した時には a-an を用いる。a は完了で-an はやはり存在の an であるらしい。(pp.294-295)」と述べており、同書の a の項目では、「完了態(perfective)」¹³の項目名のもと、『「ちゃんと...した』意、即ち完了の様な意味を表わす。而もその結果の今まで及んでいるような心持を持っていることがある (p293)」と記している。

この記述は、二段階の解釈が可能である。まず、Perfective の項目下に置いているのだから「即ち完了の様な意味を表わす」というところの「完了」とは項目名通りの Perfective となる。しかしまた「その結果の今まで及んでいるような心持を持っていることがある」と続けており、これは Perfect の性質になる。では a はすなわち Perfect なのかと言うと、金田一の a の項目下の例文には、以下のような aan(rokoka)の例が含まれており、「結果の今まで及んでいるような心持」を表すことが a の機能なのかどうかは、断定できない。

Siramkutturi ciki ayke Oyna kamuy kene inunpe kar **rok oka**.

よくよく考えて見たるにオイナ神がはんの木の炉ぶちを作ったのであった。

(金田一 1993 [1931] : 293、アイヌ語表記改変)

¹¹ コムリー (1988[1976])

¹² コムリー (1988[1976])

¹³ 態の訳語として aktionsart, aspect を用いている。

一方、aan については明確に「既に完了して今にその結果が及んでいるのを発見した時には a-an を用いる (金田一 1993 [1931] : 294)」とあることから、金田一の記述の中で、現在にまで結果が及ぶことを表すことが明示されているのは、a よりむしろ aan である。

また、ひとつの可能性としては、a が Perfective を、aan が Perfect を表示するという対立が考えられるものの、a には Past、Perfective、Perfect のいずれとも言えない例¹⁴もあるため、検討が必要である。

そして知里 (1973[1942]) は、金田一の a の記述について、以下のように指摘している。

a や rok を完了態とされているけれども、これらは持続的な意味を有する用詞にも附くのである。

a=kor rok seta あなたが所有して居られる犬。
4.A=持つ (a) 犬

これらは態を表わすというよりは寧ろ法を表わしていると見られる。a-an に至っては…(中略) …明らかに法を表わす助詞である。

(知里 1973[1942] : 503、アイヌ語表記・カナ表記改変)

知里はここで、a が「完了」を表すアスペクト形式ではなく、「法 (ムード)」を表わしていると主張している。知里自身は a を「法 (mood)」の「確說法」=「文の内容を既定の事実として確説するもの (同 p154)」に分類しており、「完了態(perfective)」を表すものには「nisa」、「wa-isam」、「(wa-)okere」¹⁵を挙げている (知里 1974[1936] : 102)。a に関して、「a=kor rok seta」がどのような状況で使われるのかは今となつては推測の域を出ないが、a が「文の内容を既定の事実として確説する」のだとすれば、これもまたモダリティあるいは証拠性の観点からの分析が必要となるだろう。

6. おわりに

以上、aan と間接証拠性との関連を考察した。助動詞 a と証拠性の関係、他の証拠性表現との関係については、今後の研究課題とする。

¹⁴ 吉川佳見(2014)『アイヌ語沙流方言の散文説話中にみる助動詞 a の機能』(修士論文、未公開)において指摘した。

¹⁵ 田村(1988 : 37)によると、「nisa」は「最近まで行なわれていなかった行動が今しがた行われて、今はもうすんでしまっていることを表わす『もう～してしまった』」の意を表す助動詞である。「～wa isam」(接続助詞 wa 「～て」と自動詞 isam 「ない」の連語)は、「その行動の結果、何かがなくなってしまったこと」を表し、「wa okere」(接続助詞 wa 「～て」と他動詞 okere 「終える、終わる」の連語)は、「予定の行動がすんだこと」を表す。

「ku=ku (私が・飲む)」を例にとると、三者の違いは、「ku=ku wa isam」は「全部飲んでしまつて、からっぽにした (だからお茶碗の中に水がない)」、「ku=ku wa okere」は「飲む筈になっていたのを飲み終えた」、ku=ku nisa は「さっきまで飲んでいなかったが、つい今しがた飲んだ」となるという。

○略号

1,2,4: 人称接辞 (3 人称はφ) (4 人称は包括的 1 人称複数、2 人称敬称、不定人称、物語中の叙述者の人称等の用法を持つ) SG: 単数 S: 自動詞主語 A: 他動詞主語または所有者 O: 他動詞目的語 COP: コピュラ NEG: 否定 FIN: 終助詞

○参考文献

- 萱野茂(1996)『萱野茂のアイヌ語辞典』三省堂
金田一京助(1993 [1931])「アイヌ語学講義」『金田一京助全集 アイヌ語 I』第 5 巻, pp.133-366, 三省堂
工藤真由美(2014)『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』ひつじ書房
児倉徳和(2015)「証拠性」斎藤純男・田口義久・西村義樹編『明解言語学辞典』, p118, 三省堂
コムリー,バーナード(1988)『アスペクト』(山田小枝訳) むぎ書房[Comrie,B. 1976. *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.]
神保小虎・金澤庄三郎(1986[1898])『アイヌ語會話字典』(新版) 北海道出版企画センター
田村すず子(1988)「アイヌ語」亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 第 1 巻』三省堂
———(1996)『アイヌ語沙流方言辞典』草風館
知里真志保(1973[1942])「アイヌ語法研究」『知里真志保著作集』第 3 巻, pp.457-586, 平凡社
———(1974[1936])「アイヌ語法概説」『知里真志保著作集』第 4 巻, pp.3-197, 平凡社
中川裕(1995)『アイヌ語千歳方言辞典』草風館
ブガエワ,アンナ(2014)「北海道南部のアイヌ語」『早稲田大学高等研究所紀要』第 6 号 早稲田大学高等研究所
吉川佳見(2014)『アイヌ語沙流方言の散文説話中にみる助動詞 a の機能』(修士論文、未公刊) 千葉大学人文社会科学部研究科
Aikhenvald, A. Y. (2004). *Evidentiality*. Oxford: Oxford University Press.
DeLancey, S (2001). *The mirative and evidentiality*. *Journal of Pragmatics*. 33(3): 369-382.
Willett, T. (1988). A Cross-Linguistic Survey of the Grammaticalization of Evidentiality. In: *Studies in Language* 12: 51-97.

○参考資料【資料記号】

- ・『アイヌ語音声資料』早稲田大学語学教育研究所
田村すず子(1984)『アイヌ語音声資料 1—ワテケさんとサダモさん』【ア音 1】
———(1985)『アイヌ語音声資料 2—ワテケさんの昔話』【ア音 2】
———(1989)『アイヌ語音声資料 6—国松さんと幸作さんの昔話』【ア音 6】
———(1997)『アイヌ語音声資料 10—川上まつ子さんの昔話と神話』【ア音 10】
・アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ<<http://ainugo.ainu-museum.or.jp/>> (2018-2-25 確認)
上田トシさんの民話「まぼろしを見た女」(1997)
川上まつ子さんの民話「イクレスイェとカラス神」(1984)
川上まつ子さんの民話「ポロシルンカムイになった少年」(1985)
川上まつ子さんの民話「エゾマツの女神と魔鳥」(1985)
川上まつ子さんの民話「村長の家には嫁いだ貧しい娘とヤナギの神」(1987)

(よしかわ よしみ・千葉大学人文社会科学部研究科)